

# 「ボルネオ・フィールドスクール：高校生-大学生-大学院生をつなぐアジア類人野外実習」の実施報告

南俊行<sup>1</sup>、鳥井朋恵<sup>2</sup>、横山実玖歩<sup>3</sup>、横坂楓<sup>4</sup>、文元りさ<sup>5</sup>、幸野立奈<sup>6</sup>、友田珠代<sup>7</sup>、池田智遥<sup>8</sup>

1京都大学教育学部、2京都大学野生動物研究センター、3京都大学霊長類研究所、4京都大学総合人間学部、5同志社大学文学部、6高知大学理工学部、7甲南大学マネジメント創造学部、8京都大学文学部

## はじめに

京都大学PWS高大連携プロジェクト「霊長類学初歩実習」に関わった大学生・大学院生が、2019年8月22日～30日に「ボルネオフィールドスクール：高校生-大学生-大学院生をつなぐアジア類人野外実習」に参加し、ダナムバレイ森林保護区、クリアス川、オランウータン島にて、オランウータンを中心とした動植物の観察研修を行なった。

訪問日

クリアス川：8月23日    ダナムバレイ森林保護区：8月24日～27日    オランウータン島：8月28日・29日

①和名 (ボルネオ島固有種・外来種) ②英名 ③学名 ④備考



## クリアス川

- ボルネオ島サバ州西北を流れるクリアス川の支流・ガラマ川のガヤン村を訪れ、テングザルを中心とした動植物を観察するツアーに参加した。
- ボートに乗りながら、川沿いに姿を見せた動物たちや植物を観察した。

- ①テングザル
- ②Proboscis monkey
- ③*Nasalis larvatus*
- ④尾は白色、顔は肌色、腕・肩・脚は灰色、手足は黒色、それ以外は茶褐色と、カラフルな体色。



- ①カニクイザル
- ②Long-tailed macaque
- ③*Macaca fascicularis*
- ④3つの訪問地すべてで観察できた唯一の霊長類。



- ①シルバートン
- ②Silvered leaf monkey
- ③*Trachypithecus cristatus*
- ④アカンボウは体色が金色。



- ①ミズオオトカゲ
- ②Water monitor
- ③*Varanus salvator*
- ④2mを超える大きさの個体も見られる。



- ①ズアカミユビゲラ
- ②Common flameback
- ③*Dinopium javanense*
- ④鳥類は一般的に4本の指を持つが、この種は3本の指しか持たないため、この名前が付けられた。



夜には、ボートで日中と同じルートを辿りながら、発行するホタルの集団を観察した。  
発光のタイミングが、日本のホタルよりも早いように感じた。

## ダナムバレイ森林保護区

- サバ財団が伐採権を持つ広大な森林地域の一部
- 1963年から保護されていて、一度も伐採が行なわれていない
- 1995年 観光客向けの滞在施設 Borneo Rainforest Lodge が開業

- ①ボルネオオランウータン
- ②Bornean orangutan
- ③*Pongo pygmaeus*
- ④今回は母娘と親離れしたばかりのメスを観察。



- ①クリイロリーフモンキー
- ②Red leaf monkey
- ③*Presbytis rubicunda*
- ④葉を好んで採食するが、果実を食べている姿も観察した。



- ①ニシメガネザル
- ②Horsfield's tarsier
- ③*Cephalopachus bancanus*



- ②Philippine slow loris
- ③*Nycticebus menagensis*



- ①ミケリス
- ②Prevost's Squirrel
- ③*Callosciurus prevostii*
- ④美しいリスとして知られ、ボルネオ島全体に分布する、分布域によって配色が異なる。



- ①シラガシキチョウ
- ②White-crowned Shama
- ③*Kittacincla copsychus stricklandii*
- ④きれいな鳴き声で、他の鳥の鳴きまねもできる。



- ①キゴシハナドリモドキ
- ②Yellow-rumped Flowerpecker
- ③*Prionochilus xanthopygius*



- ①オオフクロウ
- ②Brown Wood Owl
- ③*Strix leptogrammia*
- ④観察したのは生後約3か月の幼鳥で、飛ばずにじっとしていた。



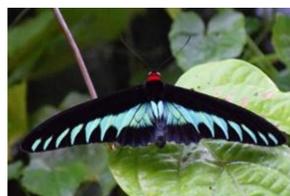
- ②Smith's green-eyed gecko
- ③*Gekko smithii*



- ②Bornean keeled pit viper
- ③*Tropidolaemus subannulatus*



- ①アカエリトリバネアゲハ
- ②Rajah Brooke's Birdwing
- ③*Trogonoptera brookiana*
- ④マレーシアの国蝶。



- ①ネットイタマヤステ
- ②Pill Millipede
- ③*Sphaerotheriida sp.*



- ②Wild nutmeg
- ③Myristicaceae (ニクズク科)
- ④人間は香辛料として利用する。チンパンジーは好み、ボノボは嫌う。



- ①スズメ
- ②Eurasian Tree Sparrow
- ③*Passer montanus*



- ①アフリカマイマイ
- ②East African Land Snail
- ③*Achatina fulica*
- ④食用として輸入され、世界中で大問題になっている外来種。日本では小笠原諸島の陸産貝類への影響が問題視されている。



## オランウータン島

- 2000年2月に設立された、オランウータンの保護・繁殖・環境教育・リハビリテーション活動を行なっている施設。
- Bukit Merah Orang Utan Island Foundation が運営を担っている。

現在OUIでは17個体のオランウータンを保護している。

かつては人工保育で繁殖を促進させ、自然に適應するためのリハビリテーションを行うことで野生復帰することを目指していた。現在は人工保育は無くなり、母親の元で育てられている。

事業を継続し、さらに野生復帰後までをサポートし続けるための壁は、資金面・人材面、と多岐に渡り、野生動物のリハビリテーション事業がいかに困難か伺える。



コドモ(右)が、フランジオスが食べているドリアンを虎視眈々と狙っている。



オランウータンの道具使用。スタッフの方がわざと遠くに置いた果物を、枝を使って引き寄せようとしている。

### BJ島

オランウータンの野生復帰を目指し、オランウータン島で生活していた3個体のオランウータンが、2011年にこの島に放たれた(現在計画は休止中)。

「BJ」は、オランウータン島で生活するフランジオスの名前。



BJ島の全体像。



BJ島に設置された調査小屋。

本実習中にご指導をいただいた、京都大学高等研究院の松沢哲郎特別教授、Renata Mendonca研究員、京都大学野生動物研究センターの幸島司郎教授、金森朝子研究員、京都大学霊長類研究所の湯本貴和教授、林美里助教、日本モンキーセンターの舟橋昴さま、ダナムバレイの野生オランウータン研究チームのみなさま、Bukit Merah Orang Utan Island Foundationのスタッフのみなさまに厚く御礼申し上げます。本実習は、令和元年度京都大学総長裁量経費の支援のもと実施されました。